

1 本年度の求人傾向と就職状況等について【回答期限まででわかる範囲で】

※ 新型コロナウイルス等感染症に伴う状況も含めて回答ください

(1) 求人の傾向 (変化のあった業種、職種等について)

- ・ 求人件数は、県内外とも昨年を上回った。昨年同様、製造業、建設・土木業、物流・運輸業等が好調であった。農業は少なかった。
- ・ 販売・サービス・観光業・宿泊業の職種がコロナ禍以前まで改善の兆しが見られる。
- ・ 物流・運送業界においては、「2024 年問題」の前倒しの傾向もあり、求人数が増加傾向にある。
- ・ 大学生だけに求人を出していたが、今年から高校生にも求人を出すなど今まで求人票が来たことがない企業から求人が来るようになった。
- ・ 二次募集をかける企業が増えた。また、求人公開後に雇用条件を上方修正する企業があった。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・ 有期雇用・派遣求人も増加傾向であるが、検討の対象にしていない学校がほとんどである。

(3) 採用試験状況

- ・ 一次応募の内定率は昨年より高い傾向がある。
- ・ リモートでの面接は少なくなった。対面重視の様子がうかがえる。
- ・ 応募者数が少なく応募締め切りを延期した企業があった。充足しないため、例年の基準や日程を変更する企業があったようだ。
- ・ 9/19 (火) に採用試験を実施する企業が多かったが、連休中に実施する企業もあった。
- ・ 面接に関して不適切事案が後を絶たない。社長や役員の意識が低い場合がある。
- ・ 3段階にわたる選考方法をする企業があり、高校生にとって負担が大きい。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・ 大きな影響はなかった。

(5) 学科・課程・地域での特徴 (9 月卒業生や通信制・定時制の生徒への支援状況を含めて)

- ・ 家政科生徒に対しては、特に食品製造業の求人が増加し、コロナ禍においては非常に就職環境が厳しかったホテル業などからの求人が増加した。
- ・ 製造業の就職が多い。
- ・ 工業科の生徒を対象とした求人が県外からも多く届いた。
- ・ 学科指定ではないが、機械系学科の生徒を求める企業は多い。
- ・ 就職指導は、科で違いはなく統一した指導を行っている。
- ・ 外部機関とつながり、支援を要する就職に向かう生徒が定時制・通信制で増加している。

(6) 就職を希望する生徒について (進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・ 製造業を希望する生徒が多く、地元志向が強い傾向がある。
- ・ 就職希望者が減少し、進学希望者・公務員希望者の割合が増加した。
- ・ 家庭の経済状況の変化を要因として進学希望から就職希望へ進路変更した生徒がいた。
- ・ 特性(発達障がい)をもった生徒又はグレーゾーンの生徒への就職指導に苦慮している。

(7) 求人取消の状況

- ・ 現在のところ求人取消し事案はないが、1 次募集条件を見直し賃金等を改定したうえで 2 次募集として 1 次求人の賃金訂正要請が複数社あった。

(8) 上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況

- ・ 直接の競合はないが、大卒の採用が見込めたことから、今年の高卒卒の求人は依頼しないという企業があった。

(9) その他

- ・ 特別支援学校では、障がい者雇用での就労形態がほとんどである。現場実習を通して企業に見極めていただき、非公開の求人票を出してもらい面接試験を受け、内定していく流れとなり 12 月～1 月頃にかけて面接試験が実施されることが多い。

2 就職慣行の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)(オンラインを利用した職場見学の状況を含めて)

- ・ 1 人あたり数社を見学するように指導し、企業が可能な日程で個別に依頼している。コロナ禍では工場内に立ち入る事さえできない企業が多かったが、今年度は状況に合わせて、柔軟に対応してくださった。
- ・ 見学申込み直後に来校され、教員が生徒に関して質問されたケース、応募前職場見学後に受験を検

討しているかどうか問われるケース、「体力的に不安なので、当該生徒は採用しない」という連絡のあったケースがあった。

- ・特別支援学校では10月に現場実習を実施し、年明けに就労決定している。

(2) 応募書類

- ・履歴書をパソコン入力する学校が増えてきた。生徒の負担が減り、書き直しにかかっていた時間を面接指導や企業研究に回せている。
- ・調査書の身長、体重欄に必要性を感じられず、応募書類にはいらぬのではと考えている。

(3) その他

- ・生徒のコロナウイルス罹患により、採用試験日程に融通を利かせてもらう企業があった。
- ・内定式を大学卒と一緒に平日に実施したケース、内定ではなく内々定を通知され、更に健康診断書や成績証明書の提出を求められるケースがあった。
- ・入社承諾書・誓約書で保証人の記載は求めないでほしい。

3 民間職業紹介事業者による就職あっせんを利用した就職活動について

- ・利用していない学校がほとんどである。
- ・自己で就職を希望する生徒が民間就職紹介会社と接して活動をしている事例がある。学校として民間就職紹介会社とは、提出書類の種類、応募前職場見学の日程等の情報交換を実施している。

4 キャリア意識形成への学校での具体的な取り組み（インターンシップの実施状況なども含めて）

※「一人一社制」といった言葉から生じている単なる出口指導ととられない、各校で行われている具体的な指導を簡潔に回答してください

- ・企業実習や工場見学、講師を招いて専門技術・知識を身につける講習会、社会人講話を実施している。
- ・「産業社会と人間」や特別活動で進路適性検査、適職・適学調べ、職業理解を図っている。
- ・インターンシップを実施し、情報共有をすることで、職業観や勤労観の醸成を図っている。
- ・キャリア意識形成のため、個別面談やJSTからの講話を行っている。
- ・生徒一人ひとりに担当を決め、綿密な指導を行っている学校がある。
- ・特別支援学校は「職業」の授業の他に、「作業学習」「生活単元学習」「自立活動」「現場実習」などがあり、地域とのつながりを持つようにしている。

5 職業安定機関や民間職業紹介事業者が実施している高卒者に対する就職支援（就職面接会・ジョブ・フェア[合同職場説明会]・就職準備講習）の活用状況、効果、課題及び要望等について（新型コロナウイルス感染症による中止されたものがある場合はその影響も含む）

(1) 職業安定機関によるもの

- ・合同職場説明会を利用し、職業選択の情報源として活用しているが、7月実施の場合は応募前職場見学の時期と重なり、参加しづらい学校がある。
- ・「高校生就職内定支援講習会DVD」を就職内定者に見せ、社会人になる心構えを指導している。
- ・ハローワーク職員による講話や面接指導をしていただいている。

(2) 民間職業紹介事業者によるもの

- ・進路ガイダンス、就職準備講習、マナー指導、面接指導を実施している。

6 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員(ナビゲーター(旧ジョブサポーター))等の就職支援

- ・コミュニケーションに課題のある生徒や障害者手帳を持っている生徒に対して、関係機関への連携等のアドバイスを受けた。
- ・ガイダンスや個別面談を実施していただき生徒の意識向上にとっても役立っている。
- ・講義形式のものだけでなく、グループワークなどを取り入れたガイダンスを希望している。

(2) 生徒、保護者への講義・講話、企業説明等（ハローワークが実施する就職ガイダンス事業）

- ・高校生合同就職面接会、進路セミナー・ガイダンスに生徒・保護者・進路担当者が参加して有益な情報を得ている。
- ・DVD視聴による参加型は、日程設定などを各校で決められるので、参加しやすい。
- ・生徒対象の説明会がさらに増えて、地元企業について知る機会があれば良いと感じている。
- ・内定者セミナーについては、社会人としてのマナーを実戦形式で研修するようなことをお願いしたい。

(3) その他・要望・意見

- ・参加する企業数が多いほどありがたい。

7 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて（具体的に）

- ・発達障がいを持った生徒に対する取り組みは必要である。特に对企业に対してのガイドラインは徹底してほしい
- ・障がい者就労に特化した施策の広報を充実してほしい。法定雇用率の引き上げは賛同できるが、事業所への広報活動をより充実してほしい。
- ・応募書類のさらなる簡素化はできないか。
- ・応募前職場見学等を含めた十分な企業選定期間の確保のために求人公開日の早期化を要望する。

8 ユースエール認定制度について（認定制度の認知度、地域での浸透具合、就職先としての優位性（高校と既に関係性が構築できている企業との比較）、認定企業求人紹介等）

- ・認定の企業については、安心感はあるが、生徒・教職員・地域への認知度が低く、企業選択の決め手とはなっていない。

9 「求人票（高卒）」について

（1）「1 会社の情報」から「5 補足事項・特記事項」までの項目についての意見や要望

- ・適性検査を課す企業が増加しているが具体的な検査名を明記してもらいたい。
- ・補足事項欄について給与（諸手当）、福利厚生（入寮条件等）等の記載箇所を各社統一できれば見易さが向上するのではと考える（現在は記載順、箇所等企业任せである）。
- ・求人担当者名が苗字だけの企業、部署名が実際の部署名と異なっている企業など最初に書類を送る際に困るので、登録の際に確認をして欲しい。
- ・応募書類の送付先と問合わせ窓口を明確に分かるようにしてほしい。「所在地」や「選考場所」で別々の住所を記載する企業がある。「補足事項」に送付先を記載する企業もあり、実際の送付先がわかりづらい。また「担当者」でなく、「問合わせ窓口」と表現を変更して確実に窓口になる人を記載するようにしてほしい。
- ・応募書類の提出先及び担当者名と、応募前見学の連絡先及び担当者名を記載する欄をそれぞれ設け、選考の担当者とは分けてほしい。
- ・非公開と表示せずに別紙や補足事項の欄に指定学校名を記載しているものがあるが、はっきりと非公開の扱いにしてほしい。
- ・「5 補足事項・特記事項」の欄を大きくし、記載できる情報量を増やすといいと思う。
- ・「3 労働条件等」の（通学）（介護休業取得実績）の欄を入れ替えて、縦罫線を揃えて欲しい。

（2）青少年雇用情報の活用状況及びその他企業選びに資する項目についての意見や要望

（青少年雇用情報が企業選びの参考として活用されているか、既存項目のほかに企業に開示や提供を希望する情報があれば理由や背景も含めて）

- ・採用者数、離職者数や平均勤務年数などで企業選びの参考として活用している。
- ・年齢ごとの年収や昇給の情報などもあれば企業選びの参考となる。
- ・研修の有無が記載してあり分かりやすくして欲しい。
- ・前年度の求人数がわかるとある程度の倍率が推定できるので、可能であれば提示して欲しい。
- ・離職者の人数が「年度ごと」だと思うが、「累積」を書いていると思われる企業もあり、分かりにくい。きちんと統一して欲しい。
- ・離職の主な理由があるとより参考になると思う。

10 「高卒求人情報WEBサービス」について

（1）その活用例と意見・要望・改善してほしい点（パスワードを生徒や保護者へ伝えることの対応などを含めて）

- ・求人票を送付されない企業やこれまで就職実績のない県外求人を探す場合には、なくてはならないサービスとして利用しているが、運用は学校によって異なる。
- ・生徒・保護者にパスワードを伝え各家庭でも求人票を見ることが出来るようにしてほしい。
- ・より円滑に操作できるようにしてほしい。例えば、サイトの左側で常に検索条件を変更できるなど。
- ・指定校非公開求人もWEB上で見ることができるようにしてほしい。
- ・ログインするとき、パスワードは1回入力すると保存できるようにしてほしい。
- ・今年度からjobtagが追加され、志望が固まってない生徒への指導がしやすくなった。

（2）新たに希望する追加機能、求人票についての意見・要望など

- ・フリーワードや会社名を入れての検索や市町村を選択できるようにしてほしい。
- ・求人票をダウンロードするときにファイル名を「会社名」にしてほしい。
- ・求人票データをエクセル形式でダウンロードすることができたらよいと思う。
- ・企業のHPにつながるよう、ダイレクトにリンクするかQRコードを記載するようにしてほしい。
- ・採用が終了したら「受付終了」などの表示が出るようにして、募集継続の有無をタイムリーに分か

るようにしてほしい。また、新たに求人が追加されたら、それがわかるようにしてほしい。

- ・「求人情報一覧」にアップロードされた日付を表示してもらえると、新着情報が分かりやすい。
- ・障がい者枠の求人を増やしてほしい。（指定校求人から一般求人へ）
- ・複数事業所の比較表の自動作成。
- ・応募前職場見学の申し込みなど、閲覧だけでなく他の機能もほしい。

11 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望) ※新型コロナウイルス感染症に伴う連携の変化についても、ご記入ください。

- ・就職補習を行うにあたり、G A T Bや就職レディネステストを提供していただいた。
- ・学校担当者による模擬面接等は非常に効果的である。連携はスムーズに取れており、しっかり支援していただいている。
- ・一般求人を高卒求人に切り替えることについて、企業と連携していただき内定につながった。
- ・障がいがある生徒の就労移行支援を行う機関との橋渡しをしていただいている。
- ・福祉手帳を取得した生徒がおり、就職先の選択、就職後のグループホームへの入居等お世話になった。
- ・障がいがある生徒に関して諸機関との連携方法のガイドやフローチャートがあると助かる。
- ・生徒が地元企業を知るためにも、生徒対象の企業ガイダンスをさらに実施してもらいたい。
- ・卒業生の状況を共有することで、ハローワーク職員に定着支援を行ってもらえることができている。
- ・学卒担当者に、障がい者求人の求人情報や求人動向を聞き、進路指導に役立てている。
- ・持病（てんかん）を持っている生徒について、ハローワークに相談した。
- ・不適切な対応の企業に即指導を行っていただいた。履歴書の電子版のフォーマットを提供していただいた。

12 「キャリア・パスポート」の取り組み状況などについて

- ・活用している学校とそうでない学校が混在している。
- ・活用している学校は、学校行事の目標設定、振り返り、面談時の資料、自己分析・進路研究等に使用している。
- ・内容や書式の違いから小中からの継続性が低いと感じている学校が多い。

13 関係機関（①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、⑥経済団体等）に対する意見・要望について※関係する機関の番号を各回答の文末にご記入ください。

- ・現行の一人一社制を維持してもらいたい。大学生と同じように何社でも受けることができるようになれば、専門性が高いなど、就職に有利な資格や資質を持つ生徒は複数社合格する一方、そうでない生徒は落ち続けて自信を失うことにつながりかねない。また、高校と企業の関係も悪化しかねない。
（①⑥）
- ・関係機関が別々に報告を求めるのではなく、各種報告内容を精選し、書式を統一して関係機関で共有することで、学校現場の負担を減らしてほしい。（①～⑥）
- ・合同就職面接会後の履歴書送付、採用試験までの日程が短すぎて十分な検討時間や応募前職場見学の実施が難しい。日程を再考してほしい。（④⑤）
- ・企業側に関係機関からパソコンでの履歴書作成があることを周知してほしい。（①②④）
- ・特別支援学校高等部在学中に手帳の更新ができなくなるケースが数件出ている。決まりかけていた企業への就労も障害者雇用前提のため、企業からも雇用を断られ、進路変更を余儀なくされる場合がある。このような生徒は、実際に就労するには何らかの支援が必要であることが多い。障害者手帳がないため、障害者就業・生活支援センターへの登録もできず、進路指導が難しくなっているため、このような生徒の支援を強化する検討をしていただきたい。（①⑤）
- ・履歴書（全国高等学校統一応募用紙）の性別欄の削除（①②⑤）
- ・公務員試験において新型コロナウイルス等の感染症に罹患した場合には、別日程で受験できるようにしてほしい。（①②④⑤）